

市川はみうり

2005年 1月3日 第1288号

毎年第1、2、3、4号は日曜刊行定価500円
税別53円 5 冊 4 日曜刊行定価税別214円

発行所 市川はみうりの会
印刷所 印刷 〒272-0366

市川はみうり新聞社

電話0470(2)1717 (代)

FAX 021-1708
(日本A社で委託印刷)

市民にとって暮らしやすい街

浦安市で情報公開訴える フォーラム

市民にとって暮らしやすい街とは。住みたいまちとして人気の高い浦安市で、実際に市が抱えている課題は何かを話し合う「まちづくり公開フォーラム（以下浦安）」が昨年末、市内のホテルで開かれた。出席者はさまざまな見地から意見を述べ合い、「いまが改革の境目」と市に、開かれた行政への取り組みを訴えた。

企業頼みの危険 指摘

パネリストは、地元で「ル設立準備会・山田順子代表のほか、地域開発するCVSバイエリ・泉澤豊社長、浦安青人、年次講師・内田悦嗣理事、三番瀬クリンアップ大作戦・上野菊良実行委員長、チャーター・スター・コーティネーターの日本政策フロンティア・池田健三郎専務理事の進行で、行政については上野

さんが「市内で温泉が掘られていて地盤沈下が心配だが、行政からの報告はない。また、海に囲まれた浦安市民が海を享受できないのはおかしい、山田さんは「教育は制度的には進んでいるようだが、住民や保護者の声を聞く姿勢や情報公開の姿勢はまだまだ」と語り、

活動の自立の必要性を語った。
「民間の力を支える方向にいかしていくかがこれからの課題」と訴えた泉澤さんは企業経営を背景に、「寒村」だった浦安は、東武デイズ（二子）の開設で急速に発展した企業都市。石炭で栄えた都市のように企業がダメになっていけば、まちは一変する。一つの企業に頼る状況は危ない」と注意を促した。
まちづくり専門家である中さんは「地方行政は政治というよりも経営。先進的なことを行い世界から人が集まる開かれたまちづくりをすべき。財政的に余裕のある時だからこそ改革しなくては。いまがその境目。『ここで生まれ死にたい』という郷土愛を抱けるように」と訴えた。

行政については上野さんが「市内で温泉が掘られていて地盤沈下が心配だが、行政からの報告はない。また、海に囲まれた浦安市民が海を享受できないのはおかしい、山田さんは「教育は制度的には進んでいるようだが、住民や保護者の声を聞く姿勢や情報公開の姿勢はまだまだ」と語り、